

中部 新 国際空港の物語

… 地方の大構想が歩いた道 …

池田 誠一

【3】協同の体制づくり…スタートした「中部方式」

1 「立地」という難問

国際空港の建設には、「立地」という難問があります。それは、狭い範囲で考えれば騒音などのマイナスの環境問題であり、少し広く捉えれば開発効果というプラスの経済問題になります。

先行する成田や関西の国際空港ではやはりこの立地が地元で大きな問題になり、建設推進の障害になりました。地域間の利害が対立する立地問題は、中部でも推進の鍵になることは容易に想像できました。ところが、やはりプロジェクトが立ち上がるや否や、地方議会やマスコミ等で早くも「どこがいい」、「ここがいい」という引っ張り合いの議論が始まったのです。下手をすると成田や関西の二の舞になりかねませんでした。そこで、今回から数回かけて、当地方がこの難問にどう取り組んでいったかを考えたいと思います。

2 合意への体制

(1) 期成同盟会

設立発起人会を経て、昭和60年1月9日、中部新国際空港建設促進期成同盟会(以後、



図1 39団体の集った期成同盟会の設立総会
(昭和60年1月10日建設通信新聞、文献①より)

同盟会)が設立されました(図1)。参加したのは39と多くの団体でしたが、中心は愛知、岐阜、三重の三県と名古屋市、それに名商、中経連の、合わせて6つの団体(以後、6団体)でした。

この同盟会がまず始めたことの中に、新空港関連の新聞記事をスクラップし、製本するという地味な仕事がありました。60年初から、その後中部空港調査会に引き継いで、空港会社の設立された平成10年末まで。全26巻。厚みは計30号を超える大作になりました。単純な作業でしたが、今日になってみると当時の現実をみる貴重な資料集になっています。当

連載では、この冊子の記事を確認しながら、物語を進めていきたいと思います。

さて同盟会では、何もかもが手探りでした。4月、急がれていた空港の調査を始める事が決まり、6団体の実務者で研究会がつくられました。そして5月13日、国の三省庁のオブザーバーも加わって第1回の研究会が開かれ、調査の方向が検討されました。7月9日には第2回が行なわれましたが、数度の寄り集まりだけでは事務局に頼りがちになり、とても利害の対立する議論をするような状況にはありませんでした。

(2) 国会議員連盟

同盟会から少し遅れて、3月8日には国会議員の組織、中部新国際空港建設促進議員連盟(以後、議員連盟)が設立されました。始めは与党内でしたが、設立時には東海三県の共産党を除く全議員の参加する超党派の議員連盟になりました。これまでは空港に反対することの多かった社会党も、「慎重参加」という条件付でしたが全員の参加になりました。地方から発想する国家プロジェクトであり、早々と国会議員の力がまとまったことは、国を動かす上で大きな意味がありました。

(3) 公益法人へ

4月19日、その議員連盟の世話人会が開かれました。その中で、候補地の調査は権威ある中立的な機関が行なう必要があり、新しい組織をつくることになりました。代表の江崎真澄議員は、関西空港のような公益法人(財)関西空港調査会を作るべきだという運輸省への打診結果を披露したのです。

そして5月23日、議員連盟の第2回総会が開かれました。その席では航空局長が「中部が必要になるのは21世紀に入ってから」と発言して総反発を受けたのですが、その会の終了後、航空局長、世話人会代表、愛知県知事の3者が打ち合わせ、公益法人の設立とその骨格が決まることになりました。新たな調査機関の設置に向けて動き出したのです。

(4) 財)中部空港調査会の設立

そしてその法人の内容をどうするかという議論が始まりました。関西空港調査会は大阪

府が認可機関でしたが、こちらは三県にまたがっていることもあって運輸省認可の財団になりました。出捐金は「五」だと手が広げられたようで、5億円になり、各団体の分担が議論されました。8月頃には「中部空港調査会」という名も固まり、理事長には三宅重光東海銀行会長の就任も決まって、9月11日の世話人会の開催へと進みました。

その直前の8月28日、運輸省の航空審議会の部会で第5次空港整備五箇年計画の考え方がまとめられました。その中に「将来の国際空港の配置(中略)のあり方を検討するための必要な調査をおこなう」という表現が盛り込まれたのです。中部という名こそ出なかったものの、一歩前進と地元を歓喜させることになりました。

財団は設立発起人会と事前審査を経て正式申請され、12月18日運輸省から設立の認可が下り、翌日登記されました。ここに空港計画の調査機関、(財)中部空港調査会(以後、調査会)が誕生しました(図2)。事務所は名古屋商工会議所ビル3階の仮住まいでした。

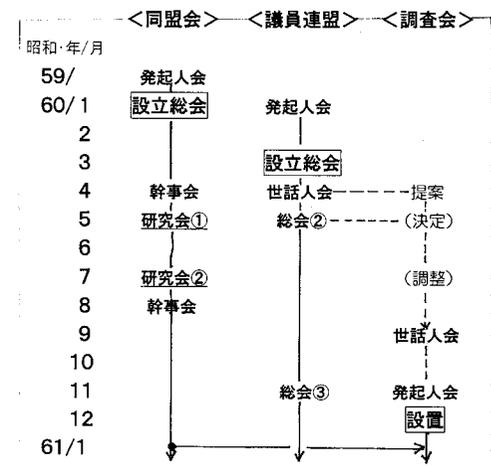


図2 中部空港調査会のできた昭和60年の動き

3 総行 お手本だった関西空港

… 調査会から空港・前島へ …

中部空港は先行する関西空港から多くのことを学びました。海上空港、環境対策、地域開発等々、中部は関西と似たところの多い空港です。とくに調査を始めるようになると、

名古屋からは、どっと関西詣でが始まることになりました。そこで今回はその関西空港を訪ねてみます。

〈財関西空港調査会〉

当時、地元大阪で関西空港に関わっていた団体が2つありました。一つは財大阪科学技術センター。今一つが財関西空港調査会です。前者は49年ごろから関西空港に取り組みましたが、59年には過激派による爆破事故に遭っています。後者は51年に空港の環境調査を中立的に行う学術機関として設立されました。ここが中部空港調査会のお手本でした。

近鉄を上本町で乗換え、地下鉄谷町線天満橋で降ります。南に少し行った大きなビルの12階。昔と同じ所に関西空港調査会がありました。会議室の壁には関西空港の2期計画のポスターが並び、調査会の今を語っています。総務・企画担当の梶事務局長次から頂いた資料の中には、当時、周辺自治体の多くが空港反対決議をしていて調査が進まなかった中で生まれた「中立的な」学術調査機関だったと説かれています。初代理事長も学者の元京大総長の奥田東氏でした。



大阪城の西、府庁近くの手町にある
財関西空港調査会(中央のビルの12階)

〈関西国際空港〉

難波に出て、空港特急で34分。5^{キロ}の橋を渡って空港です。関西新空港は、当初神戸沖が有力視されていました。それが政治バランスから神戸市長の突然の変節で、ここ泉州沖に決まりました。騒音を陸地に及ぼさないという条件で沖合い5^{キロ}。沈下する洪積層上の立地になりました(図3)。高い建設費、遠いアクセスもそこから生まれたのです。

ターミナルビルは有名なレンゾ・ピアノ氏の設計が採用されました。デザインは外観が



5^{キロ}の橋のむこうに空港がかすんで見える

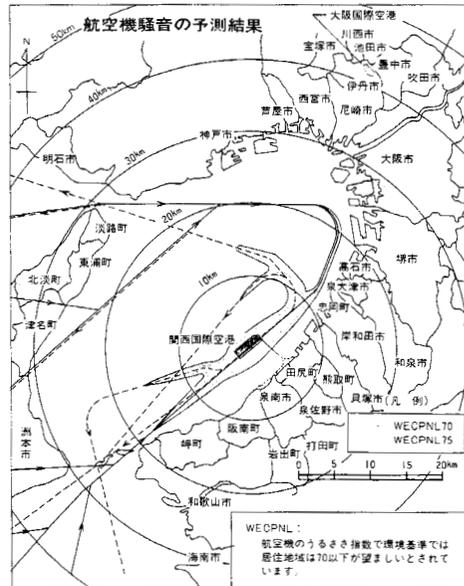


図3 関西空港の騒音予測。WECPNL70を陸地に及ぼさないために、沖上5^{キロ}になった



最上階の国際線入口。天井を風の道が通っている

鳥が羽を休めている形になっているなど斬新でしたが建設費にはね返りました。内部は風の流れがポイントでしたが飛行場を見る場所のつくりえないターミナルになりました。

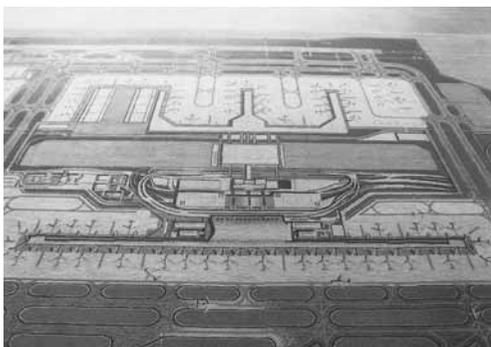
それでも今では2期工事によって、「オー



国際線の待合室。一般客からは飛行場は見えない



2期工事でできた空港島。道路の工事が進んでいた



ホールの床面のじゅうたんに織られた空港の全体計画。
2期のターミナルは水上に造られる

ブンバラレル」という独立に利用できる2本の滑走路を持つ空港になりました。空港駅からデッキを辿って2期工事の見学ホールに行くと、水路の向こうに大きな2期の空港島(545畝)が見えます。滑走路は暫定共用されていますがターミナルは未着手で、まだ課題が残っているようです。

〈りんくうタウン〉

帰りは途中のりんくうタウンに寄ってみます。当初「前島」と呼ばれ、バブル経済に乗って計画されましたが、その後は惨めでした。



ゲートタワーから見るりんくうタウンの北側と岸和田方面。まだ空地が残っている

すぐ横のタワーゲートビルの最上階54階に上ると関西空港がよく見えます。しかしこのビルも2棟の予定が1棟になり、それさえも財政破綻してしまいました。300畝を超える開発地も空き地が目立ちます。

とはいえ、関西空港を全体的に見ると、大阪空港の存続や神戸空港の新設という予期せぬ条件の中でも、着々と進んでいる空港整備の力強さを実感することになりました。

4 中立性の確保

利害の対立する中での立地調査には中立的な組織が不可欠でした。関西空港調査会は環境調査の中立性を確保するために生まれたものですが、中部はその前の立地調査の中立性を要請されて生まれました。

要となる事務局も、当初は一部の団体からの派遣だけで設立される予定でしたが、他の団体も手を挙げて6団体総てが参加することになりました。これもこの組織の中立性を確保する上で大きな意味があったといえます。それによってはじめて地元6団体の協同の場が出来上がったのです。

国際空港は国が調査・建設するものという当時の常識を打ち破って、地元が主となって調査を進めるという試みが始まりました。後に「中部方式」と呼ばれるシステムがここにスタートすることになったのです。

〈主な参考文献〉

- ①『中部新国際空港関係新聞記事』(1980、同期成同盟会 他)
- ②『20年の動き』(1997、財関西空港調査会)
- ③その他、関西国際空港株式会社パンフレット等